

「令和5年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 七栄小学校】

令和5年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	B
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

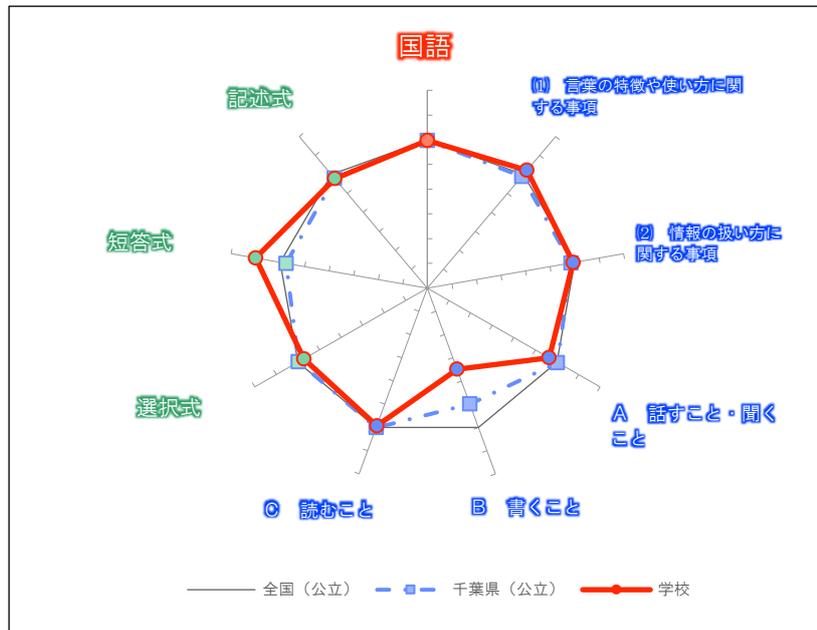
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



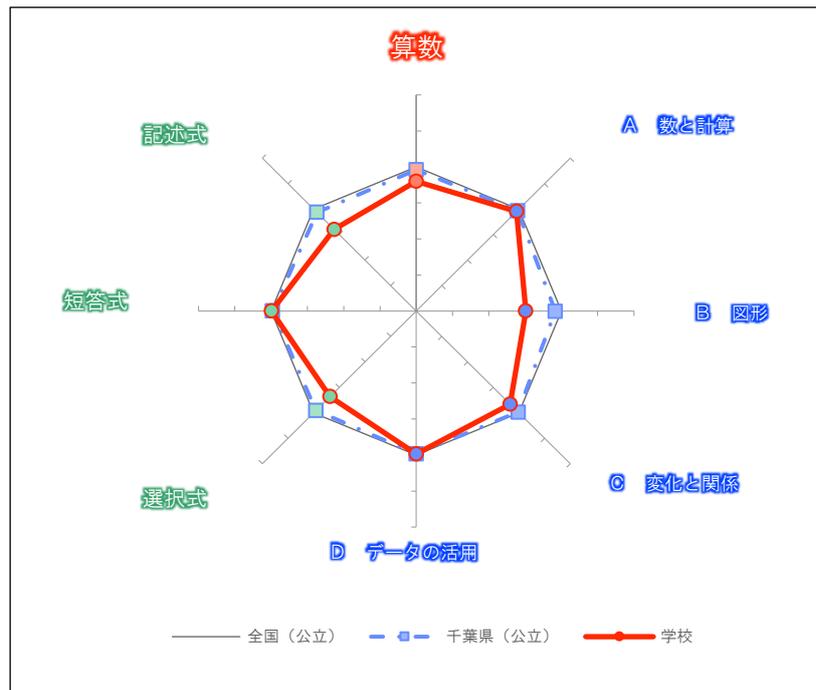
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較してほぼ同じです。
- 「書くこと」の領域では、正答率が下がっています。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる問題の正答率が県や全国を上回っていました。その反面、無解答率が全国や県の無解答率に比べ高かったため、この点に課題があります。
- 昨年度、「記述式」の形式において、無解答率が課題でしたが、「記述式」の問題での正答率が上がりました。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習やミニテストなどを通して漢字の読み書きが確実に定着するよう
にしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適
切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導していきます。
- 「書くこと」については、各教科の授業において、書くという場面を設定し、どのように書けば
読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。また、教師による添削も行ってい
きます。
- 書く活動を意識的に取り入れ、書く場面を設定したことにより、「書く」ことに対して、抵抗感
が下がってきています。引き続き、いろいろな場面で書く活動を取り入れ、書くことに慣れさせ
るとともに、書く内容についても指導をしてまいります。

算 数



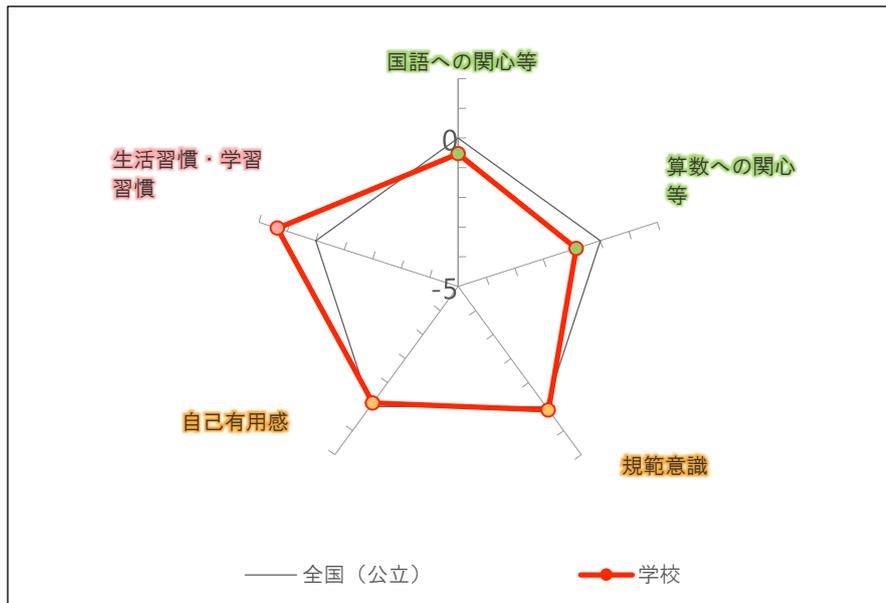
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較してほぼ同じです。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題の正答率が県や全国の正答率を大きく上回っていました。その反面、無解答率が全国や県の無解答率に比べ高かったため、この点に課題があります。
- 記述式の問題の正答率が下回っています。また、無解答率が高い傾向にあります。
- 三角形の面積について、言葉や数を用いて記述する問題の正答率が下回っています。
- 百分率で表された割合についての問題の正答率が下回っています。

【改善方策等】

- これからもドリル学習や100マス計算の練習などを通して、基礎・基本的な計算力が確実に身に付くように努めてまいります。
- 記述式の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」で「持っている」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回っていました。将来の夢や目標をもって学校生活をおくっている児童が多いことがわかりました。
- 昨年度全国平均を下回っていた「家で計画を立てて勉強をしたり、宿題に取り組んだりしていますか」という質問では、今年度は全国平均を大きく上回りました。家庭学習の習慣が少しずつ身に付いてきていることがわかりました。
- 「自分にはよいところがありますか」や「友達関係に満足していますか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均をやや下回っていました。
- 「新聞を読んでいますか」では全国平均を大きく下回っていました。「読書は好き」と答えている児童は少なくないので、新聞を読む習慣が身に付いていない児童が多いことがわかりました。

3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。また、授業はもちろんのこと、学校生活全般において、友達同士がお互いに認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきます。

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身につけられるように、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。